

松山港中・長期ビジョン（案）の概要

1. 松山港中・長期ビジョンの策定

中・長期ビジョン

中・長期ビジョンとは、港湾管理者が、港湾計画の改訂に先立ち、港湾利用者、関係行政機関、住民など様々な主体の意見・要請をもとに、**概ね20年～30年先の将来の長期的視野に立った総合的な港湾空間の形成とそのあり方**を構想・ビジョンとしてまとめるもの

中・長期ビジョンのうち短・中期的施策を抽出

港湾計画

10～15年程度先を目標とした港湾の能力、港湾施設の規模や配置などを定めるもの

松山港港湾計画（平成5年6月改訂、平成8年3月・平成30年3月一部変更）

●目標年次：おおむね平成15年

●計画の方針

- 1) 物流機能の充実
- 2) 高浜地区での港湾の再開発
- 3) 海洋性レクリエーション基地の整備
- 4) 臨港交通体系の充実
- 5) 港湾における安全確保のため外郭施設を整備
- 6) 背後圏の環境改善等のため廃棄物処理用地を確保
- 7) 大規模地震災害に対処するため耐震強化岸壁を整備

改訂から30年経過

●松山港を取り巻く状況等の主な変化

➤ 松山港を取り巻く物流環境の変化

- ・松山港外港地区国際物流ターミナル供用開始
- ・フェリー航路の減少
- ・トラックドライバー不足や2024年問題への対応
- ・松山外環状道路の整備

➤ 港湾利用ニーズの変化

- ・クルーズ需要の増加
- 社会経済情勢の変化
 - ・脱炭素化の推進
- 大規模災害への対応
 - ・大規模災害発生時の港湾への期待

●港湾の能力

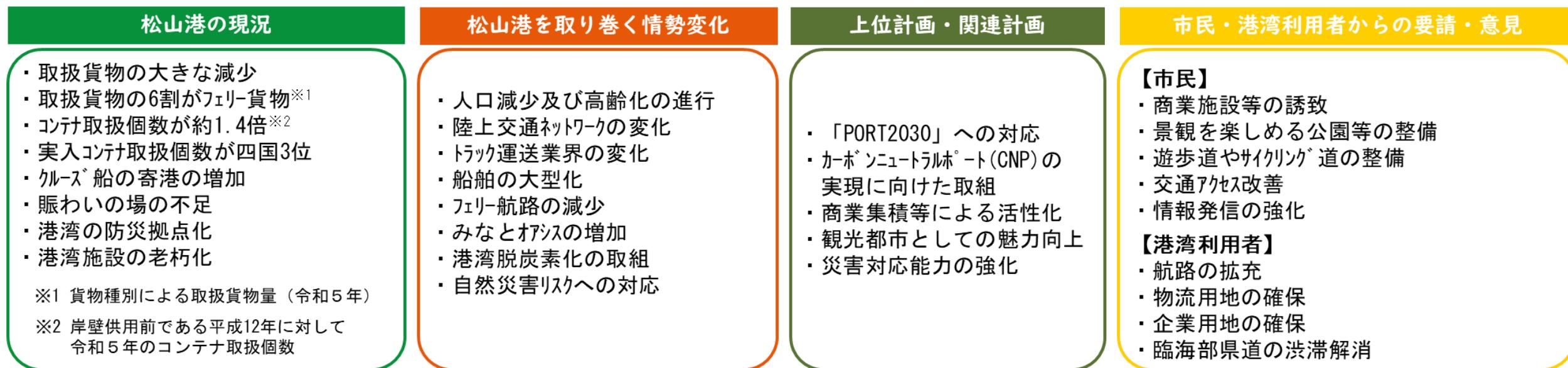
| | | |
|----------|----------------|---|
| 取扱貨物量 | 外貿 | 180万トン |
| | 内貿 (うちフェリー) | 2,490万トン (うち1,990万トン) |
| | 合計 | 2,670万トン |
| 入港最大標準船型 | | 4万DWT級貨物船 ➔ 8.4万DWT貨物船 1.4万DWT級コンテナ船 (外港新埠頭) |

松山港港湾計画の改訂を目指して、松山港の中・長期ビジョンを策定する

松山港中・長期ビジョン（案）の概要

2. 松山港が果たすべき役割と将来に向けた課題

「松山港の現況」、「松山港を取り巻く情勢変化」、「上位計画・関連計画」、さらに「市民・港湾利用者からの要請・意見」を踏まえたうえで、将来「松山港が果たすべき役割」とそれに対する「将来に向けた課題」を定める。



松山港が果たすべき役割

| | |
|--------|-------------------------------|
| 物流・産業 | 地域産業の競争力強化に資する 物流拠点 |
| 交流・賑わい | 観光と地域の交流の場としての 賑わい拠点 |
| 環境 | 持続可能な社会に資する 環境と調和した港湾 |
| 安全・安心 | 安全・安心な暮らしと企業活動を守る 防災拠点 |

将来に向けた課題

| | |
|--------|---|
| 物流・産業 | (1) 効率的な物流機能の確保 (2) 低利用施設と老朽化・狭隘化施設等の見直し (3) カーボンニュートラルポート(CNP)実現に向けた次世代エネルギー貨物への対応 (4) 港湾内の物流・産業用地の確保 (5) アクセス性の向上 |
| 交流・賑わい | (6) クルーズ需要・プレジャーボート需要への対応 (7) フェリー航路の維持・拡大 (8) 賑わいの創出 |
| 環境 | (9) 海辺の景観を楽しめる空間の確保 (10) カーボンニュートラルポート(CNP)実現に向けたCO2削減対策 |
| 安全・安心 | (11) 防災拠点としての機能強化 (12) 放置艇の収容 (13) 気候変動への対応 |

松山港中・長期ビジョン（案）の概要

3. 松山港中・長期ビジョン（案） <①将来像>

松山港が果たすべき役割、そして、将来に向けた課題を踏まえ、松山港の将来像（本ビジョンにおけるキャッチフレーズ）を「^{えがお}愛顔広がる松山港 ～にぎわいと活力あふれるウォーターフロントを目指して～」と定める。

松山港が果たすべき役割

| | |
|--------|-------------------------------|
| 物流・産業 | 地域産業の競争力強化に資する 物流拠点 |
| 交流・賑わい | 観光と地域の交流の場としての 賑わい拠点 |
| 環境 | 持続可能な社会に資する 環境と調和した港湾 |
| 安全・安心 | 安全・安心な暮らしと企業活動を守る 防災拠点 |

将来に向けた課題

| | |
|--------|---|
| 物流・産業 | (1) 効率的な物流機能の確保 (2) 低利用施設と老朽化・狭隘化施設等の見直し (3) カーボンニュートラルポート(CNP)実現に向けた次世代エネルギー貨物への対応 (4) 港湾内の物流・産業用地の確保 (5) アクセシ性の向上 |
| 交流・賑わい | (6) クルーズ需要・プレジャーボート需要への対応 (7) フェリー航路の維持・拡大 (8) 賑わいの創出 |
| 環境 | (9) 海辺の景観を楽しめる空間の確保 (10) カーボンニュートラルポート(CNP)実現に向けたCO2削減対策 |
| 安全・安心 | (11) 防災拠点としての機能強化 (12) 放置艇の収容 (13) 気候変動への対応 |

松山港の将来像

^{えがお}
愛顔広がる松山港

～にぎわいと活力あふれるウォーターフロントを目指して～

松山港中・長期ビジョン（案）の概要

3. 松山港中・長期ビジョン（案） <②基本方針に対する基本施策>

松山港の将来像を実現させるため、「物流・産業」・「交流・賑わい」・「環境」・「安全・安心」の各分野において、松山港の基本方針に対する基本施策を以下のとおり設定する。

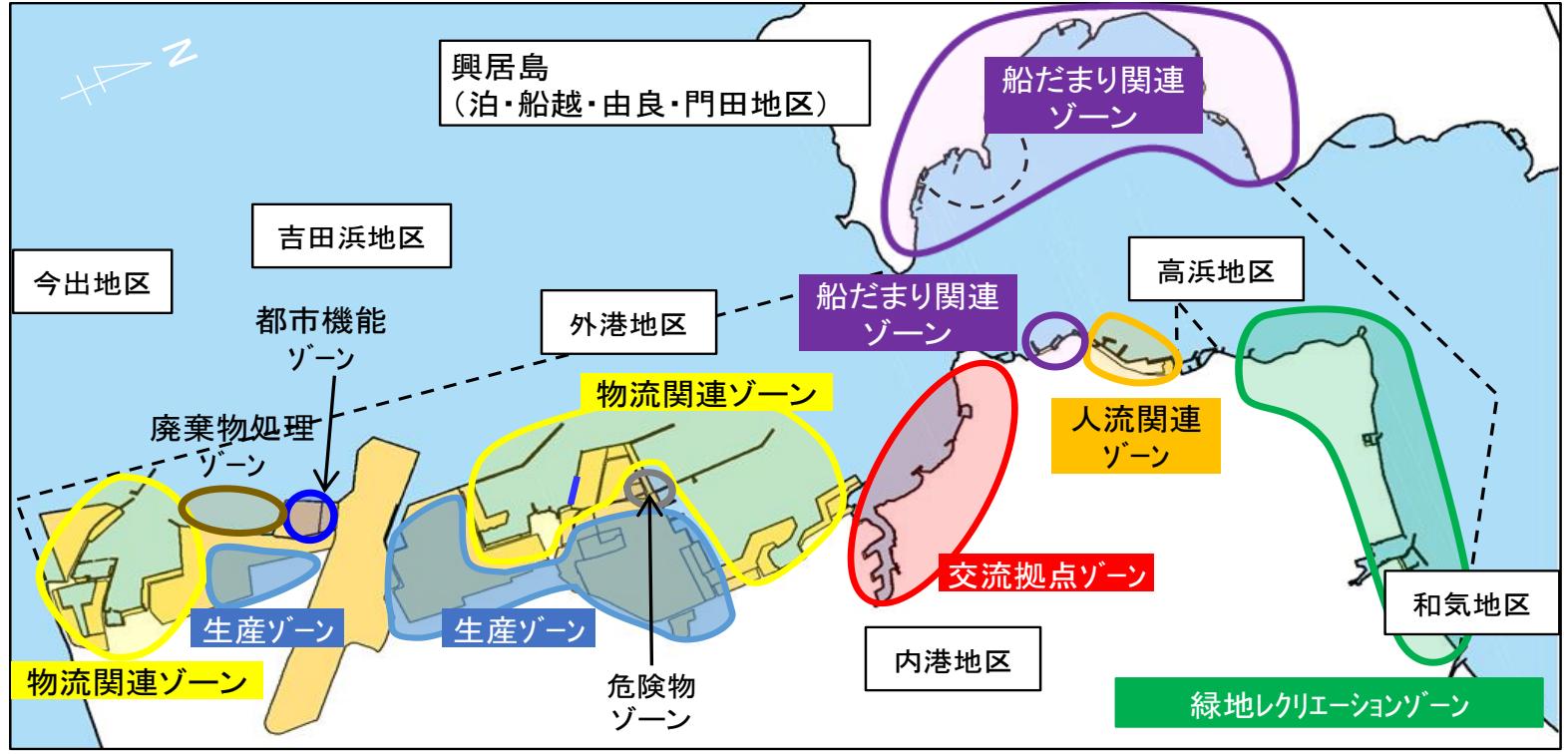
| 分野 | 基本方針 | 基本施策 |
|--------|------------------------------|---|
| 物流・産業 | I. 港湾物流機能向上による地域産業の競争力強化 | ①ふ頭再編や港湾施設整備による物流機能強化  |
| | | ②松山外環状道路との連携・アクセス道路の見直しによる物流効率化  |
| | II. 新たな臨海部用地を活用した地域産業の振興 | ③新規埋立て・低利用施設の利用見直し等による企業用地の確保  |
| 交流・賑わい | III. 国内外来訪者の受入・交流拠点の形成 | ④クルーズ旅客等の受入拠点形成 ⑤フェリー旅客等の交流拠点形成  |
| | IV. 県民に親しまれる新たな臨海部の賑わい空間の創出 | ⑥官民連携による地域活性化 ⑦既存施設を活かした賑わい空間の創出  |
| 環境 | V. 豊かな海辺空間の活用 | ⑧海辺の景観を活かした空間整備  |
| | VI. カーボンニュートラルポート実現に向けた取組の推進 | ⑨港湾脱炭素化に向けた港湾機能の高度化  |
| 安全・安心 | VII. 防災・減災機能の強化による安全・安心の確保 | ⑩緊急物資受入機能の強化 ⑪大規模災害発生時の災害廃棄物受け入れへの対応 ⑫協働防護による気候変動への対応  |

松山港中・長期ビジョン（案）の概要

3. 松山港中・長期ビジョン（案） <③空間利用計画（ゾーニング）>

基本施策内容等を踏まえ、松山港における空間利用計画（ゾーニング）を設定する。

平成5年港湾計画改訂時



今回計画(案)

